

2021年8月10日  
テオリア第107号

定価 350円  
毎月10日発行  
定期購読料 年間 4000円  
半年 2000円

郵便振替口座 00180-5-567296研究所テオリア

# θεωρία テオリア

発行 研究所テオリア  
東京都北区田端1-23-11-201  
☎&📠 03-6273-7233  
ホームページ  
http://theoria.info  
E-mail: email@theoria.info

## 強行五輪—コロナ下の都議選が示したものの



五輪開会式に抗議＝7月23日

### 強行五輪—コロナ下の都議選が示したもの

7月23日、東京五輪開催が強行された。「アンダーコントロール」の嘘によって招致された東京オリパラは、アパート住民や野宿者の暴力的な追い出しを行いつつ、公園などの公共空間を私有化で奪い、利権優先でナショナルリズムを煽り立ててきた。「被災ルート組織承認せず 聖火・福島案」(毎日、7月16日)の記事が示す通り、復興がされない事実は隠蔽された。

昨年からコロナパンデミックは五輪の本質を明らかにした。「安全安心な大会はできない」68%(できる21%)、五輪反対55%(賛成33%) (朝日7月19日)と多くが開会反対にもかかわらず、菅政権とIOCは民衆の命よりも、五輪マフィアの利権、政権の威信を最優先した。

五輪大会関係者だけが特別で隔離期間が短縮され、パブル方式は穴だらけ。五輪強行による人流増加のため、パンデミック第5波の東京では感染拡大が続いている。「コロナに打ち勝った証」どころか、コロナ対策に失敗した愚策の証しになろうとしている。

今年になってからの組織委員会会長森喜朗による女性差別発言、佐々木宏、小山田圭吾、小林賢太郎らの一連の差別・人権侵害は五輪が人権意識が希薄な者たちが主導する差別に満ちたイベントであることを浮き彫りにした。

7月4日都議選では、五輪開催を支持した自民党は目標議席を大幅に下回る33議席で実質敗北。政権のコロナ対策批判、五輪反対と取り上げた。

性差別発言、佐々木宏、小山田圭吾、小林賢太郎らの一連の差別・人権侵害は五輪が人権意識が希薄な者たちが主導する差別に満ちたイベントであることを浮き彫りにした。

7月4日都議選では、五輪開催を支持した自民党は目標議席を大幅に下回る33議席で実質敗北。政権のコロナ対策批判、五輪反対と取り上げた。

今年になってからの組織委員会会長森喜朗による女性差別発言、佐々木宏、小山田圭吾、小林賢太郎らの一連の差別・人権侵害は五輪が人権意識が希薄な者たちが主導する差別に満ちたイベントであることを浮き彫りにした。

### 夏期カンパをお願いします

◆送り先  
郵便振替 00180-5-567296 研究所テオリア

座標塾第17期 (2021年3月～11月)  
第4回 グリーン・ニューディールは気候危機を解決できるか  
9月17日(金) 午後6時30分～9時  
第5回 いま、MMTをどう考えるか  
11月19日(金) 午後6時30分～9時  
講師 白川真澄(ビープルスプラン研究所)  
会場 ビープルスプラン研究所会議室 (第5回は予定) 又はZOOM  
参加費 1回1000円(会員500円)  
※要申込  
研究所テオリア 03-6273-7233  
email@theoria.info

インフォメーション  
第16回ヤスクニキャンダル行動  
8月7日(日)午後1時半/在日本韓国YMCA又はZOOM  
実行委員会  
8・15反「靖国」デモ  
8月15日(日)午後3時/内神田尾嶋公園/反「靖国」行動

紙面紹介  
東京都議選小金井 市民の力で当選 漢人あきこ / 小山剛……………2～3面  
東京五輪強行に抗議……………3面  
民主主義は蘇るか—ポピュリズム・権威主義の波に抗して(下) 中村勝己……………4～7面  
バイデン政権とクローバルタックス 金子文夫……………8面

東京都議選挙小金井市選挙区

# 漢人あきこが1人区で自民に大差

## 五輪・道路中止掲げ当選できました

## ミニシシパリズムをキーワードに

## 新しい政治に

## 漢人あきこ（東京都議会議員）



武蔵小金井駅前=7月3日

7月4日投票の都議選、定数1の小金井市選挙区で、無所属で当選しました。自民党公認・公明党推薦の新人女性候補との実質的一騎打ちとなり、45・4

先「最大・緊急のコロナ対策」としてのオリ・パラ開催断念は必然的にメインテーマとなり、多くの方からの支持を得ることになりました。

一方で、多くの市民・市議の連携が実現した背景には、ドブ川を清流へと復活させ、湧水を守るために地下水を涵養するなど、小金井市長が長年に亘って守り育んできた『はげ』と野川という貴重な地元の自然環境を守りたいという多くの

### 地域課題を軸とした市民選挙

私の希望のキーワードは「ミニシシパリズム（municipalism）」(地域に根付いた自治的な民主主義を重視する市民主体の政治)です。パリをはじめ大都市の市長も続々と誕生させるなど、ヨーロッパでは

## 政治を「自分ごと」に

### ——幅広い市民の力で4千票差の勝利

### 小山剛（小金井市民）

都議会議員選挙・小金井市選挙区（1人区）では、幅広い市民の力で漢人あきこ候補が当選を果たした。気候危機の問題を訴え、都道計画から『はげ』と野川を守ることを目指し、自発的な市民の参加によって運営され、市内の政党・政治団体・市議の党派を越えた協力に基づき、対抗馬に4000票以上の差をつける

### ボランティア選挙チームで運動

選挙チームは、市民有志のボランティアで運営された。基本的には、市議であっても一人のボランティアと

未来のために「気候危機はまったなし」への取り組みも含め、さまざまな可能性も視野に入れながら柔軟に前向きに対応していきたいと思えます。

都議選小金井市選挙区（投票率41.26%）			得票数・率
漢人明子	18789	(45.4%)	前回13531票
広瀬真木（自民）	14097	(34.1%)	11293票
辻野栄作（都ファ）	8502	(20.5%)	16039票

で、東京都も株主である東京電力は横須賀に新たに石炭火力発電所を建設しようとしている。また、東京都はCO<sub>2</sub>削減目標を掲げているが排出量は増え続けている。漢人は、実効性のある対策を訴えた。

（3面へ続く）

# 犠牲の祭典=東京五輪強行に抗議

## 7・23五輪は中止だ!抗議アクション



IOC・菅政権による東京五輪強行に抗議し、中止を求める抗議アクションが連日行われた。

ぼったくり男爵バツハIOC会長の来日・広島訪問に対し、7月16日広島では市民が「ヒロシマを利用するな」と抗議デモを行った。

同日、東京では広島に連帯して、築地市場跡から「バツハ・コーツは広島・長崎に行くな」東京五輪一週間前抗議デモ」が選手村・組織委員会に向けて行われ、1200人が参加した。

7月10日、ホテルオークラの超スイートルームに滞在するバツハに抗議し五輪中止を求めるアクションが五輪マフィアを退治する市民有志呼びかけで行われ、50人が警察の妨害を受けな

ら、ホテルオークラに肉薄する抗議行動を行った。17日にも「嘆願書」提出とアピールの行動を行った。

18日には「バツハ歓迎ふざけるな 五輪はドタキャン 7・18迎賓館前抗議スキャンデリング」が行われた。

開会式直前の7月23日昼には都庁前で「聖火リレー到着セレモニー抗議のスタンディングアピール」が行われ、300人が猛暑の中、抗議の声を上げた。オリピック災害おこわり連絡会(おこわりリンク)、反五輪の会、オリピック終息宣言実行委員会などが行動を呼びかけた。

この日、五輪強行に対して、おこわりリンクと反五輪の会は「オリピックは、ナショナリズムと愛国心を煽り、敵意と憎悪を賞賛と感動のオブラートに包む偽装された『平和の祭典』であり、(スポーツとは何ひとつ関わりのない、ナショナリズムと愛国心のお化け屋敷である」と即刻中止を求める声明を出した。

この日、五輪強行に対して、おこわりリンクと反五輪の会は「オリピックは、ナショナリズムと愛国心を煽り、敵意と憎悪を賞賛と感動のオブラートに包む偽装された『平和の祭典』であり、(スポーツとは何ひとつ関わりのない、ナショナリズムと愛国心のお化け屋敷である」と即刻中止を求める声明を出した。

終わりの始まりを 刻んだ

23日夜には「ロックダウンだ!東京五輪」開会式抗議アピールが行われた。夕方、原宿神宮橋でデモ前の集会が行われた。

井谷聡子さん(関西大学)は「東京は4度目の緊急事態宣言下で関西から来ることは迷った。この差別と汚職と暴力のトウキョウ2020に最後まであきらめず

に皆さんと一緒に声を上げるために来ることにした。この8年、五輪は私たちの想像の上を行くひどい差別と暴力をもたらした。復興五輪と言いつつ、東北の復興を遅らせた。

女性たちに男の都合に合わせてと言いつつ、豚呼ばわりした。障害者への暴力やユタヤ人虐殺をジョークにする人たちが作った開会式をやるうとして。この者たちに友好や多様性、平和を語る資格はない。このようなひどい人権侵害と暮らした破壊はオリピックの構造がもたらしたものの。

近代が生み出した化け物は近代と共に消え去る運命にある。私たちの闘いはオリピックの終わりの始まりをはっきり刻んだ」

大英昭さん(都庁職病院支部)は「東京の今日のコロナ感染者は1300人以上。これは1週間後には30人以上が集中治療室に入床するほど重症になる。都内の病床は切迫している。五輪強行は命の問題。感染者が増えれば必ず亡くなる人が出る。五輪強行は倫理的にも許されない。声を上げ続けよう」

新国立周辺の交通規制を名目に警察はデモコースを変更してきた。

700人の参加者は「オリピックは今すぐ中止!」開会式を今すぐやめろ」と抗議の声をあげながら、デモ。キャンセルオリピックの声を街に響かせ

た。続いて、千駄ヶ谷駅前に移動し、8時からの開会式に対する抗議のアピール行動を行った。抗議の声は新国立の中でも聞こえていたと報道された。

アピールで杉原浩司さんは「7月10日に続き、17日、バツハに直接五輪反対の声を伝えるために市民30人でホテルオークラに向かった。途中、赤坂警察署警備課によって公園から進めなくなった。進もうとすると羽交い絞めにされて公園に戻される。家塚武夫警備課長は『君たちがホテルの正面で抗議することは日本の国益に反する』と言った。日本の警察に国益を判断する権限があるのか。

五輪は多くの人たちを排除し傷つけ、差別と排除をばらまいて進められてきた。こんな見苦しい五輪を強行することはあり得ない」

韓国のピョンチャン五輪反対連帯からの「東京オリピック抵抗運動への連帯声明」が紹介された。

水戸の聖火リレー抗議での1人逮捕に続いて、7月16日武蔵野市役所前での聖火イベントに抗議した1人が逮捕された事件の弾圧救済アピールが行われた。

天皇ナルヒトが元首つらして開会宣言する開会式へ向けて、「IOC出てけ!オリピックやめろ!」と抗議の声を上げ続けた。

約されたが、夜な夜なウエブ会議システムを利用して打ち合わせを重ねた。半年前から準備をはじめ、5回の全戸ポストインク・10回のイベント開催などをすべてボランティアの自力で行った。

10回以上のイベントもこの選挙チームの特徴ではないか。テーマは、都議会についてのことから、都市計画道路・ジェンダー・ひきこもり・給食、そして、ミヤンマーの状況と民主主義についてと多岐にわたった。

もちろん、選挙とは候補者を議会に送り出す営みである。しかし、それだけではなく、宇都宮けんじさんの「選挙こそ社会運動」という言葉もあるが、市民の一人一人をエンパワメント



していく社会教育/生涯学習の場であり世論を喚起していく社会運動として選挙のプロセスは位置づけられていた。

選挙が始まってからも、街宣・選挙カー・事務所・SNSの運営、電話かけやビラの証紙貼りはもちろんのこと、街宣に使うパネルの制作も市民ボランティアがほとんど作っていた。選挙期間中は都内各地からのボランティア参加も心強かった。

この選挙を担ったボランティアの中心メンバーは女性が多数を占めた。かつて、小金井市議会は日本一女性議員が多い議会であり、今でも女性比率で全国の上位を占める。性的役割分業の下、好む好まざるにかかわらず女性達は地域に残されてきた。子育てや福祉を社

会の問題として提起していく中で、女性の政治への進出が進んでいた。この選挙チームもその流れを受けている。今は男女雇用機会均等法改正に伴い労働への参画が格段に進み、選挙チームのメンバーもリタイア世代でなければ、普段は仕事に従事している。仕事の合間を縫っての参加となった。

応援弁士として訪れた、元都議で女性政策研究家として活動している三井マリ子さんが、感激してSNSに投稿した。彼女が乗った選挙カーのナビゲーター・ドライバー・アナウンサー、すべて女性だったからである。もちろん男性メンバーが担当することもあった。偶然ではあるのだが、選挙ボランティアの女性比率の高さが現れたエピソードである。

今回の都議選は、2017年に引き続き2度目のチャレンジとなった。安保健案や特定秘密保護法などに対する地域での党派を越えた反対運動の連携の機運が、都政での統一候補擁立の流れにつながった。2017年の時には、日本共産党との調整が難航して候補者の一本化できず、都民ファーストの候補に2000票差あまりで惜敗することとなった。

今回は立憲民主党、日本共産党、社会民主党、東京生活者ネットワーク、新社会党、緑の党クリーンズジャパンの6党派の共闘が実現した。小金井市議会24人の議員のうち11人が名前を出して応援、他にも名前を出せないが応援するという議員もいた。上述の市民中心とした選挙チームの動きを尊重する形で広範な連携が実現した。

選挙の準備を始めてから支持はシワシワと広がっていった。政策を見て選挙チームに問い合わせ、ボランティアに加わった10代もいた。『フライパンひとつ持って』政治が「自分ごと」になるとき」という漢人候補の半生を書いたパンフレットを用意し、これを市内の様々な店においてもらった。最終的にこのパンフレットを置いた店は16店舗にまで広がった。選挙期間になって街に立つと期日前投票で漢人に入ってきたという声も多く聞かれた。

激戦区として全国的な注目を集め開票時にはNHKの中継が事務所に入るほどであったが、最終的に4000票以上のリードとなった。

4年前の都民ファースト旋風の尻拭いをするような今回の選挙、新たな議員を議場に送り出して終わりでない。広く市民を巻き込み、都政に声を伝えていく活動はまだ始まったばかりである。活動の評価は4年後に下される。

### 6党・市民の共闘で支持拡大

今回の都議選は、2017年に引き続き2度目のチャレンジとなった。安保健案や特定秘密保護法などに対する地域での党派を越えた反対運動の連携の機運が、都政での統一候補擁立の流れにつながった。2017年の時には、日本共産党との調整が難航して候補者の一本化できず、都民ファーストの候補に2000票差あまりで惜敗することとなった。

座標塾第17期第2回

# 民主主義は蘇るか

## ポピュリズム・権威主義の波に抗して (下)

中村 勝己 イタリア政治  
思想史研究

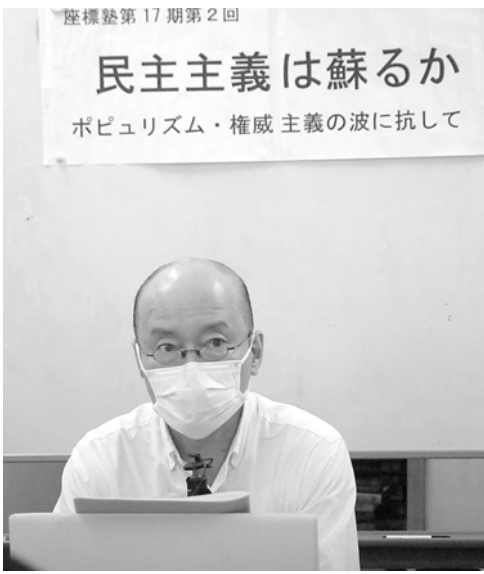
### 市民社会の創造的再建

日本の政治については、安倍政権・菅政権はポピュリズムと違うので——ポピュリズムの要素がありま

すが——ここでは割愛します。日本の政治に関して言うと、やはりコロナ対策の問題。どの政党が政権担当を

しているか、大きな違いはない。しかし、コロナ禍でみんな不安がある。政権に対してもっと早く効率的にやれないのかという不満がある。私もある。菅政権の支持率は下がっている。一方で都知事、大阪府知事は、

言っていることが無内容で、毎日のように記者会見



### 民主主義は蘇るか

ポピュリズム・権威主義の波に抗して

2020年11月に米国大統領選挙の結果、共和党候

補であり現職のトランプ大統領が敗北し、民主党候補

のバイデンが当選した。しかしその後の混乱を見る限り、米

国政治が今後ともポピュリスティックな漂流(マル

コ・レヴェリ)を続けることは間違いないだろう。

前述したレヴェリりの議論で指摘されていた通り、

ポピュリズム政治が新自由主義レジームの下で成立し

たものだとするならば、それへの対抗はグローバリゼーションと新自由主義政

策からなる資本主義に替わ

## 質疑応答

### 「上」か「下」か

発言者A 講演で成功したポピュリズムは右翼ポピュリズムという結論を出され

ている。政権の一翼を担うようになったという意味で成功したということでしょうか? また、なぜ左翼ポピュリズムはなかなかうまくいかないのか。

中村 「成功した」というのは、政権入りするぐらいの

勢力形成ができたという意味。左翼ポピュリズムに関しては難しい。政治勢力形成の場合にリーダーとフォロワーの関係が当然ある。社会運動でもそうだが、皆さんポピュリスティックな政治スタイルに対する反発がある。右翼ポピュリズムとして成功している勢力を見ると、メディア

の使いかたがうまい。テレビ映りを重視している。リーダーは活舌が良く、私みたいなだらだらしゃべり方をするとか。ベルルスコーニなんて、若返りのために美容整形まで受けている。

私たちがこれまで民主主義が大事、自由が大事、平等が大事、社会運動が大事という形で育んできた価値観と、ポピュリズムのリー

ダー達が体現している価値観は、はつきり言って真逆。そのことを無視すべきではないというのが私の考え。右翼ポピュリズムがここまで台頭してくると、ポピュリスティックな形で左翼も対抗しなければいけないという主張に説得力があるのは私も認める。でも、左翼ポピュリズム論に乗れない。根本にあるのはそういう価値観の違い。ポピュリズムの価値観というのはネオリベ的な価値観と親和性が高い。ネオリベ的な人間類型でも言うか、人間は金を稼いだ者が一番偉いんだ。そういう価値観が露骨にある。ユーチューブの番組で財テクとかで運よく大金持ちになったような男が偉そうに社会と人生を語る。しかし言っている中身は極めて薄っぺらい。

こういふネオリベの人間類型が始める政治がポピュリズムだと思ふ。左翼ポピュリズムというのは私たちが育んできた人間の平等とか民主主義といった大切な価値観を売渡す。魂売らないと、転向しないとポピュリストになれないと私は思っている。

発言者B 上か下かという話が出てきたので、どう区別したいのか知りたいたい。中村 上か下かとは、最近日本でも言われるようになった、上級国民、下級国民というお喋りがありますね。『上級国民』『下級国民』という本まで出た。私自身は本屋で立ち読みして、何

だかなあと思つて、そのままたま本棚に戻しましたが、ただ周囲を見回すと、上級国民、下級国民という言葉遣いはネットの世界なんかで定着している。多くの人が実感していること。単なる努力で逆転できるような格差ではない。手も足も出ない。経済的、社会的な影響力の面でも大きな格差が出てきている。かつ、それが世襲されている。そういう非常に過酷な格差社会の実感というのが、国際比較でいって日本なんかはまだまだ。アメリカはもっとすごいですが、ヨーロッパもそうなりつつある。そこで、上か下かという議論が出てきたと思う。結局、既成政党は右も左も上。我々下は既成政党から相手にされていない。だったら我々もあんな奴ら相手にする必要はない。我々下の声をきくと吸い上げてくれる政治家を押し上げてようじゃないかという議論になつていると思う。

発言者C イタリアの環境政党やその立ち位置について教えてください。中村 イタリアの緑の党については、2021年現在で国会議員は上院にも下院にもいない。イタリアでもチェルノブイリの後、80年代に緑を名乗る環境政党として出発し、80年代、90年代、2000年代には、それなりに国会議席を維持していた時期もあった。ですから、ヨーロッパの

政治状況にタイムリーに対応していくことは本当に難しい。日本も2000年代に入ってからいろんなことが激変してきたけど、イタリアはそれ以上の激変にさらされている。近年では中東危機に端を発する難民問題など。だから、正しいことを愚直に言い続けていれば何とかなるといふ状況はなくなっている。

### 日本でのポピュリズム

発言者D 横浜市でカジノ反対運動を2年間やっていきます。れいわ新選組候補者べきか順番にやるべきかというのをみんなに投げかけて、数十人集会、数百人集

会、千人集会という感じで、1カ月ごとに会場を予約し、作り上げていったのは、とても面白かった。最後の千人集会で、リコール派と住民投票派が分かれてしまったら、僕の手には負えないと、投げ出してしまった。そのまま、表舞台から引

先でワクチンを接種するというのは、倫理的に考えても正当化できる考え方。次に65歳以上接種となった。65歳以上に限るとは、コロナに感染した場合のリスクが高いだろうと推測できるので、医療従事者の次に優先するというところで、ここまでは議論としては正

対して一定の医療と生活の水準を保証してやるんだからお前ら黙って言う事聞けよ、みたいな。そういう押しつけがましい性格をもっていた。それに対する批判の意味があった。17-18世紀にはすでに「生政治(バイオポリティク)」というのが始まって

障がい者を多数殺傷するという痛ましい事件がありました。容疑者についてドックをやっていくとか、ネオナチイデオロギーの信奉者とか色んな情報が流れてますけど、一番の問題は確信犯ということ。命は選

僕是非常に好感を持っていて、決してポピュリストじゃないと弁護したい。発言者F 海外と日本の状況、政治文化に関わることだと思ふが、山本太郎をどう見るのか。

謙虚で自己修正能力がある。リーダーの資質がある人なので、今後も頑張ってもらいたいと思う。あの人だけに頼るのは負担が大きすぎる感じもします。

状況、政治状況をリードするような議論をしようという。ポピュリストは考えて、「オリーフの木」(中道左派政権構想)を応援するつもりで左翼の再定義をやった。ポピュ

も、自由を重視するのが右であって、平等を重視するのは左だ。その程度のもので、右と左を再定義した。もちろんそれは、フランス革命以降200年間の右と左の対立、ロシア革命以降の社会主義と資本主義との対立をきちんと見据えた上での再定義だった。ポピュ

るロマン主義的な反発と。それが今、21世紀の初頭に繰り返されていると、私は見えています。日本の文脈で言ったら、例えばTPP。できるだけ外国から安い農産物を輸入した方が経済的には効率的。あるいは原子力発電の再稼働。合理主義を追求していく流れ、グローバル化の流れが必ず出てきてい

反対運動は。住民投票、リコールのどちらを先にやるかというので、リコールの人が7、8月にやるんだから、住民投票の人達が、一歩退いて9月、10月ごろにやりましょう。今度はリコール派が準備が足りなくて、私たちがやっている途中からリコールが始まってしまった。住民投票は直接請求の法定署名が集まったんで、直接請求自体は成功したのですが。

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

それはネクロポリティクス・イデオロギーだと私は思っています。今日はネクロポリティクス(死の政治)の話はしなかったですが、今から45年ぐらい前に、フランスの哲学者のミシェル・フーコーがバイオポリティクスと生政治という言葉を使い始める。バイオポリティクスは英語ですけど、フランス語でバイオポリティク。45年前だから、70年代の半ば。ヨーロッパでは福祉政策がピークを迎えた時期。その頃の福祉政策というのは今ほどきめ細かくない。ある種のパターンリズムというのか、国民

### 左翼の再定義とポピュリズム

中村 最近考えているのは、右と左という区分が、今後どうなるのか。90年代イタリアで左翼の再定義論争というのがありました。立役者がノルベルト・

逆平等を重視すれば、各人のイニシアティブとか自由な競争が軽視される。なので、自由と平等が対立関係(トレードオフの関係)になっている時に、実際に対立関係になるんだけれど

(5面から続く) 分析できないというご指摘 思います。

### ムフの 左派ポピュリズム論

発言者H 面白い講演だと思えます。今日の右翼ポピュリズムについての話は

その通り。山本太郎の話も出てきた。左翼ポピュリズムを明確に主張しているのはムフくらいだが、それに言及してほしい。

ムフがあえて左派ポピュリズムとというのは、人々の情念、理性だけでは切れない情念に訴える。左翼はそこが弱かったで、そこが大事だと。右翼の側がいち早く人々の情念に訴える政治をやってきたことに学ぶべきだと。左翼ポピュリズム化の理由の一つ。左翼ポピュリズムをどう考える



スペインのポデモス

か。スペインのポデモスは分裂したりしたが、典型的な左翼ポピュリズム。今は社会労働党とポデモスの連立政権。イタリアとスペインは面白いなど見ているが、それをどう見るか。

ポピュリズムの台頭には中間団体の解体がある。水島治郎さんはヨーロッパの中間団体への所属比率がどれだけ減っているのかの統計を出している。教会も農協も労組も減っている。日本ほどではないが。バラバラになった人々が右翼ポピュリズムを支持する。左翼ポピュリズムを支

持する人も同じようなことで支持しているのか。中道左派が中道右派と変わらなくなつて、ネオリベを支持して自分たちを見捨てた。それが左右に共通してある。中道左派への批判が左翼ポピュリズム的なものを支持する。左翼ポピュリズムについての意見を聞きたい。

学歴という意味ではありませぬ。2011年の街頭占拠闘争の盛り上がりから出発して、でも街頭闘争だけでは足りない、これを全国政治勢力化して選挙に挑戦しなければならぬというの、極めて「策士」的な発想、戦略的な発想ですよね。

ムのために(明石書店)は訳もとても読みやすく、活動家であれば読まなければいけない良い本だと思いがすが、私は異論がたくさんある。ムフは、左翼ポピュリズムが成立する条件として、はっきりいって言わなければ、2つの政党、2人の候補者が一騎打ちになるようなタイプの選挙を考えている。わかりやすく言う

く、様々な社会運動がそれぞれに発展する中で、ある種のコーリジョン(連合)みたいなものができあがる。このコーリジョン(連合)は、前衛党が指導するタイプのコミンテルン型の人民戦線、統一戦線ではない。前衛党という中心を抜くという議論だったはず。

翼がEU批判に踏み切れないのは、EUの理念を準備したのは自分たち左翼だという自信があるからでしょうね。実態はグローバル金融資本の自由な活動領域を広げてあげること、帰結したわけですが、ムフは政治における情念(情熱)の役割を大きく重視する。左翼

「これからは愛国左翼だ」みたいな。自公政権と日本資本主義がもはや売国路線なんだから、TPPや原発で左翼が愛国になるのは当たり前だろうと。そういう議論をしてもいいけど、でも、そのことのツケが何十年後には出てくる。そういうことを言っていると愛国主義左翼はいずれ排外主義左翼になってしまうでしょうね。

代わること 従来の中間集団に 西欧における中間団体の解体という話は水島治郎さんの本で指摘されましたけれども(水島治郎編著『ポピュリズム』という挑戦)岩波書店、確かにキリスト教由来のサブカルチャーがものすごく薄くなっている。日曜ごとに教会に礼拝に行く人が減っている。若い世代ほど顕著に世俗化が進んでいる。ではキリスト教会に代わるような横のつなが

### 従来の中間集団に 代わるもの

発言者G イタリアがポピュリズムの実験場になっている。そして、中間団体・共同体の創造的再生についての話がありました。

中村 イタリアに関して言うと、実は北部、中部、南部で相当違いがある。イタリア左翼は元気があって面白いらしいということ、戦後日本の左翼がグラムシとかトリアッティに注目する形でイタリア研究が盛んになった。第一世

代わること 西欧における中間団体の解体という話は水島治郎さんの本で指摘されましたけれども(水島治郎編著『ポピュリズム』という挑戦)岩波書店、確かにキリスト教由来のサブカルチャーがものすごく薄くなっている。日曜ごとに教会に礼拝に行く人が減っている。若い世代ほど顕著に世俗化が進んでいる。ではキリスト教会に代わるような横のつなが

りを作っているのかと言うと、これを代替するものが結局無い。作り切れていない。だけど、街によっては伝統的に住民の横のつながりが活発なところと、それがぼつとしない街とがあるのは事実。

これはイタリアだけの話でなく、ヨーロッパでもなく、自治体を一つの舞台にしながら人と人のつながりの厚みを増している。あるいは、日本では経済学者の宇沢弘文が言っていたような、ある種の公共財、共有財、コモンズみたいなものの厚みを増していることで、人々のつながりを再建していく。イタリアだけではなく、ヨーロッパ各地でもそういう動きが見られるところがある。私も最近知ったので、もうちょっと調べて紹介できるようにになったらなと思います。

発言者1 先ほどお話しされた、近代合理主義とかロマン主義、右翼左翼。そこにおいて情念とか尊厳が大事だと。連帯感や帰属意識といってもいいかと思うが、それは重要な概念だと思ふ。それが失われつつあるから、人間として自分が生きていくという実感が失われてきていると言ってもいいと思う。

個人主義、自由が行き過ぎて——自由が行き過ぎてという、右派の言い方みたいになりますけれども、自分が何に所属しているか

という意識がちゅうぶらりでない。一人で生きていけない。災害があったらつながらりとか言われるように、社会的紐帯がグローバル資本主義の中で失われてきているから、そこに訴えるポピュリズムや右派が政権を担う形になる。

解体してきた中間集団に代わりうるものがあるのか、生まれつつあるのか。このネット時代に教会や組合や企業に、従来の中間集団に代わるものが生まれようとしているのを知りたい。若者の中で、ネット空間の中にあるのかもしれない。

中村 大学で授業をやっている者といろいろ話すと、私の仕事ですが、この2年間、今年度はまだ2カ月弱ですけど、ひたすらオンラインで授業をやっています。一方で、こういうオンラインやデジタル的なつながりである種のコミュニティが作れる感じはある。

にもかかわらず、皆がこれで満足するのかわからない、それはありえない。何らかのフェイス・トゥ・フェイスの対面的なつながりをみんな求めている。それがないと、感情的な安定も実現できないし、仲間だねという自覚をもつてこれからは何か一緒にやっていきましようという話にはなりえないと思います。

再構築していくのかという問題に関しては、テーマが大きすぎて、私の頭では全く思いつかないという感じはあります。

とにかく、自分の家から出て、自分の部屋から出て、自分の部屋の範囲のところに居場所をみないものを作っていくことから始めるしかない。それは居酒屋、スナック、喫茶店かもしれないし、古本屋かもしれないけれど、何らかの居場所が絶対に必要だと思ふ。つまり、場とか居場所をみないものを自覚的に作る取り組みが必要。

発言者1 コロナ禍で行動や外出が制限されてくると、ヨーロッパやアメリカ、ニューヨークを見ても、友人と食事したり、リアルに会いたくなる。うちの近所では子ども食堂はみんなの食堂、みんなの居場所というのを、ボランティアの人がやっています。そういう存在。ふらりと行ってそこで知り合いに会える。イタリアでも、南と北で違うかもしれないませんが、そういうつながりが、居酒屋とか、カフェとかが非常に大事な存在と思ふ。企業に代わりうる。作家の須賀敦子さんが紹介したコルシア書店のような場所に集まって、そこで自分の意見を述べたりする場が必要なのではないか。新しい中間集団になりえると思ふ。

発言者1 コルシア書店の仲間たち』に出てくるコルシア書店とは、イタリアのミラノのカトリック青年運動の左派のたまり場になった本屋でした。昔、イタリアにコムニタという運動があった（コムニタとはイタリア語でコムニティのこと）。日本ではタイプライターの会社として知られたオリベッティが資金の提供をしたり、雑誌をつくって若者たちに書かせたりとか、そういう下支えをしていた運動です。

発言者1 コルシア書店の仲間たち』に出てくるコルシア書店とは、イタリアのミラノのカトリック青年運動の左派のたまり場になった本屋でした。昔、イタリアにコムニタという運動があった（コムニタとはイタリア語でコムニティのこと）。日本ではタイプライターの会社として知られたオリベッティが資金の提供をしたり、雑誌をつくって若者たちに書かせたりとか、そういう下支えをしていた運動です。

発言者1 コルシア書店の仲間たち』に出てくるコルシア書店とは、イタリアのミラノのカトリック青年運動の左派のたまり場になった本屋でした。昔、イタリアにコムニタという運動があった（コムニタとはイタリア語でコムニティのこと）。日本ではタイプライターの会社として知られたオリベッティが資金の提供をしたり、雑誌をつくって若者たちに書かせたりとか、そういう下支えをしていた運動です。

発言者1 コルシア書店の仲間たち』に出てくるコルシア書店とは、イタリアのミラノのカトリック青年運動の左派のたまり場になった本屋でした。昔、イタリアにコムニタという運動があった（コムニタとはイタリア語でコムニティのこと）。日本ではタイプライターの会社として知られたオリベッティが資金の提供をしたり、雑誌をつくって若者たちに書かせたりとか、そういう下支えをしていた運動です。

発言者1 コルシア書店の仲間たち』に出てくるコルシア書店とは、イタリアのミラノのカトリック青年運動の左派のたまり場になった本屋でした。昔、イタリアにコムニタという運動があった（コムニタとはイタリア語でコムニティのこと）。日本ではタイプライターの会社として知られたオリベッティが資金の提供をしたり、雑誌をつくって若者たちに書かせたりとか、そういう下支えをしていた運動です。

発言者1 コルシア書店の仲間たち』に出てくるコルシア書店とは、イタリアのミラノのカトリック青年運動の左派のたまり場になった本屋でした。昔、イタリアにコムニタという運動があった（コムニタとはイタリア語でコムニティのこと）。日本ではタイプライターの会社として知られたオリベッティが資金の提供をしたり、雑誌をつくって若者たちに書かせたりとか、そういう下支えをしていた運動です。

発言者1 コルシア書店の仲間たち』に出てくるコルシア書店とは、イタリアのミラノのカトリック青年運動の左派のたまり場になった本屋でした。昔、イタリアにコムニタという運動があった（コムニタとはイタリア語でコムニティのこと）。日本ではタイプライターの会社として知られたオリベッティが資金の提供をしたり、雑誌をつくって若者たちに書かせたりとか、そういう下支えをしていた運動です。

# コロナ・環境問題が問う 巨大空港

## 7・4東峰現地行動&現地調査

津々浦々に作って、そこをおけるカトリック青年運動のもっとも真剣でもっともラディカルでもっとも清貧で、反資本主義的なメンタリティをもった運動の生き証人だった。

そういう意味では、変な人としての須賀敦子を再評価しなければいけないと思ふ。コルシア書店を全国に不思議な本屋を全国に

津々浦々に作って、そこをおけるカトリック青年運動のもっとも真剣でもっともラディカルでもっとも清貧で、反資本主義的なメンタリティをもった運動の生き証人だった。

そういう意味では、変な人としての須賀敦子を再評価しなければいけないと思ふ。コルシア書店を全国に不思議な本屋を全国に

7月4日、東峰現地行動が行われた。デモ前集会はらつきよう工場で開催。30人が参加した。主催は三里塚空港に反対する連絡会。

集会では、山崎宏さん（連絡会）が「コロナ下で国際旅客は90%以上減少したまま。にもかかわらず、29年3月第3滑走路建設完成へ用地買収、工事と進む。反省もなく、先が見えず人民に大きな犠牲を強要する建設事業に反対する闘いを」

7月4日、東峰現地行動が行われた。デモ前集会はらつきよう工場で開催。30人が参加した。主催は三里塚空港に反対する連絡会。

集会では、山崎宏さん（連絡会）が「コロナ下で国際旅客は90%以上減少したまま。にもかかわらず、29年3月第3滑走路建設完成へ用地買収、工事と進む。反省もなく、先が見えず人民に大きな犠牲を強要する建設事業に反対する闘いを」

7月4日、東峰現地行動が行われた。デモ前集会はらつきよう工場で開催。30人が参加した。主催は三里塚空港に反対する連絡会。

集会では、山崎宏さん（連絡会）が「コロナ下で国際旅客は90%以上減少したまま。にもかかわらず、29年3月第3滑走路建設完成へ用地買収、工事と進む。反省もなく、先が見えず人民に大きな犠牲を強要する建設事業に反対する闘いを」

7月4日、東峰現地行動が行われた。デモ前集会はらつきよう工場で開催。30人が参加した。主催は三里塚空港に反対する連絡会。

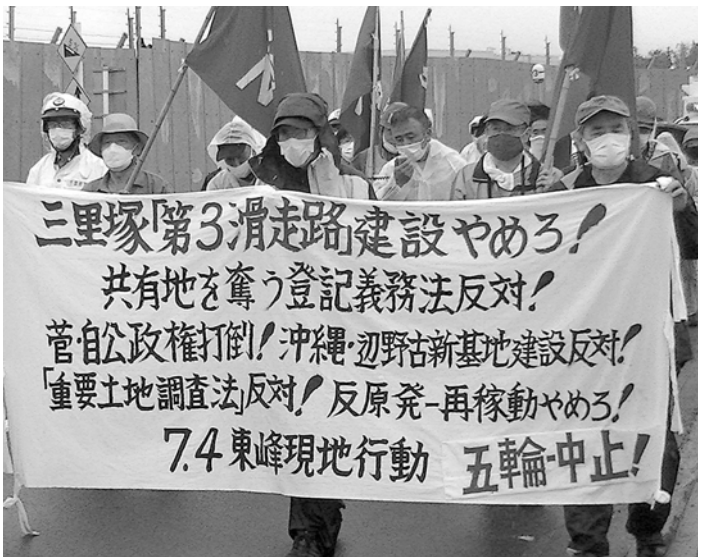
集会では、山崎宏さん（連絡会）が「コロナ下で国際旅客は90%以上減少したまま。にもかかわらず、29年3月第3滑走路建設完成へ用地買収、工事と進む。反省もなく、先が見えず人民に大きな犠牲を強要する建設事業に反対する闘いを」

7月4日、東峰現地行動が行われた。デモ前集会はらつきよう工場で開催。30人が参加した。主催は三里塚空港に反対する連絡会。

集会では、山崎宏さん（連絡会）が「コロナ下で国際旅客は90%以上減少したまま。にもかかわらず、29年3月第3滑走路建設完成へ用地買収、工事と進む。反省もなく、先が見えず人民に大きな犠牲を強要する建設事業に反対する闘いを」

7月4日、東峰現地行動が行われた。デモ前集会はらつきよう工場で開催。30人が参加した。主催は三里塚空港に反対する連絡会。

集会では、山崎宏さん（連絡会）が「コロナ下で国際旅客は90%以上減少したまま。にもかかわらず、29年3月第3滑走路建設完成へ用地買収、工事と進む。反省もなく、先が見えず人民に大きな犠牲を強要する建設事業に反対する闘いを」



空港会社は第3滑走路協

# バイデン政権の税制改革とグローバル・タックス

金子文夫 横浜アクションリサーチ

2021年1月に成立した米国のバイデン政権は、格差是正に取り組みながら抜本的な税制改革を提起し、同時に多国籍企業に

## バイデン税制改革は米国内に何をもちたか

バイデン大統領は就任直前に1.9兆ドル規模(約200兆円)の「米国内救済計画」を打ち出した。これはコロナによって打撃を受けた低所得層の支援を目的としたもので、現金直接給付、失業保険給付期間の延長のほか、子育て世帯に対する税額控除を使った「子ども手当」の毎月支給など、ベーシックインカムに近い給付の実施を目指している。3月に共和党が反対したため民主党単独で可決した。

続いて打ち出されたのが、中長期の「米国内雇用計画」と「米国家族計画」である。「米国内雇用計画」は8年間に2.3兆ドルを投じ、インフラ整備(高速道路、通信網、水道等)、産業強化(電気自動車、半導体、クリーンエネルギー等)、生活

する新たな課税ルールを創出を主導しつつある。その意義と限界について検討してみたい。

から39.6%へのほか、出を主導しつつある。その意義と限界について検討してみたい。

基礎向上(学校、保育施設、低所得者住宅等)を図るという。「米国家族計画」は10年間に1.8兆ドルを投入し、教育支援(幼児教育、コミュニティカレッジ、マインリテイ教育等)、育児・介護支援、家計支援(子育て世帯の税額控除)を進める構想となっている。

「米国内雇用計画」では、法人税の引き上げ(21%から28%へ)、多国籍企業の海外収益への課税強化などで10年間1.75兆ドル、15年間2.75兆ドルの税収を確保する目標だ。「米国家族計画」では、個人所得税の最高税率引き上げ(37%から39.6%へ)、キャピタルゲイン課税の引き上げ(20%

けでなく民主党の一部議員も同意していない。「米国内雇用計画」について、超党派の上院議員団は、8年間1.2兆ドルに圧縮、使途は道路等の旧来型のインフラ整備を主とし、財源には法人税増税をあてないといった妥協案を早くも作り上げた。

今後の見通しとして、おそらく大幅な増税は議会で認めず、財政赤字が膨らむことになるだろう。しかし、そうなる前に、インフレの高進は避けられず、といてFRBが金融引締め、金利引上げに動けば金融危機を招きかねない。FRBの舵取りをめぐる米国内経済は混乱を深めていくかもしれない。

戦前の国際連盟の時代から、国境を越えた事業活動に対する課税の問題は検討が重ねられてきた。そこでは、多国籍企業の本社所在国と海外子会社立地国の課税の配分が焦点になり、

二重課税の調整を図る2国間租税条約のモデルが作成された。第二次大戦後、多国籍企業の活動が活発になるにつれて、二重課税を回避しつつ課税権を確保する租税条約と国内租税法体系の整備が図られていった。国際的な議論の場としてはOECDと国連の二つがあったが、主導権は先進国クラブであるOECDが握っていた。

このような状況に対して、英国を拠点とする有力NGOのタックス・ジャスティス・ネットワークなどが問題を提起し、多国籍企業の課税逃れは年間5000億ドルという推計を発表した。対策として、多国籍企業グループの利益を合算したうえで各国に一定の方式で合算利益を配分し、それぞれ課税する方法(独立企業原則、PE原則の否定)、各国の法人税率の共通最低ラインの設定(タックス・ハイブンの否定)などの提案を行った。

リーマンショック以後、問題を放置できなくなったOECDは2012年にG20と共同して46カ国の規模でBEPS(税源浸食と利益移転)プロジェクトを立ち上げ、2016年に15項目の行動計画を策定した。これによって多国籍企業の活動・納税実績の国別報告書作成が義務づけられるなどの成果が生まれたが、税逃れを十分に捕捉する実効性あるルール制定は残された課題となった。

出し、多国籍企業課税の新ルール形成を目指した。2018年には、①多国籍企業の総利益に対する課税権の国別配分、②法人税の国際最低税率の設定という2本柱からなる方策がまとめられた。ところが、米国のトランプ政権がこれに同意せず、新ルールの実現は暗礁に乗り上げた。そこにバイデン政権が登場し、国内の法人税増税政策に連動する形でOECD提案を来国主導で推進することに

第一に、対象となる多国籍企業の範囲が狭く、税収増加が見込めない。現時点では、年間売上高200億ユーロ(約2.6兆円)以上、利益率10%以上の巨額高収益企業のみが対象になる。業種では銀行・保険・資源企業は除かれている。該当企業は世界全体で100社程度と想定されている。GAFAのうちアマゾンが利益率が10%未満であるため除外される。

このような問題点をあげて、いま拙速に決定してしまうと今後当分の間変更されないため、もう少し時間をかけて検討すべきだとし、早期妥結に反対する意見が提起されている。しかし、現在の改革機運を逃すならば、現状を変える機会が失われ、現行の欠陥ルールが生き続けることになる。

第二に、課税範囲が限定され、利益配分方式が偏っている。新方式は利益全体に及ぶのではなく、利益率10%までの利益および10%を超える超過利益の70~80%は従来の課税方式のままであり、超過利益のうち20~30%にしか適用されない。この部分が売上高に応じて

第三に、最低税率が低すぎ、タックス・ハイブンを容認することになる。現時点では少なくとも15%以上という低いラインが設定されている。そのうえ実効税率を計算する分母にあたる利益の算出に抜け道が用意され、従来どおりの税負担でも計算上の税率が高くなり、最低法人税率が意味をもたないことになる。

第四に、総じて途上国の声が反映されていない。現在の案が実施された場合、途上国側に税収増加のメリットはあまり期待できない。先進国主導のルール作りでなく、国連のもとで途上国の発言力が保障された場でルールが策定されるべきだという批判がある。

## 新しい国際課税ルールはどこまで評価できるか

新しい国際課税ルールは、これを求めてきた国際NGOや労働組合からはあまり評価されていない。

第一に、対象となる多国籍企業の範囲が狭く、税収増加が見込めない。現時点では、年間売上高200億ユーロ(約2.6兆円)以上、利益率10%以上の巨額高収益企業のみが対象になる。業種では銀行・保険・資源企業は除かれている。該当企業は世界全体で100社程度と想定されている。GAFAのうちアマゾンが利益率が10%未満であるため除外される。

第二に、課税範囲が限定され、利益配分方式が偏っている。新方式は利益全体に及ぶのではなく、利益率10%までの利益および10%を超える超過利益の70~80%は従来の課税方式のままであり、超過利益のうち20~30%にしか適用されない。この部分が売上高に応じて

グローバルに活動する多国籍企業に対して、課税権力も主権国家の枠を超えてグローバル化していく必要がある。諸富徹『グローバル・タックス』(岩波新書)は、グローバル化の方式には、課税権力のネットワーク化と超国家機関の創出の2ルートがあると論じているが、その第1ルートが現実化しつつあると考えられる。グローバルな課題に対処するためには、1国主義を超える様々なグローバル・ガバナンスの道が開拓されなければならない。課税問題にとまらず、多国籍企業規制(ビジネスと人権)、気候変動、感染症などの課題に連携して取り組んでいくことが求められている。

## なぜ国際課税ルールは革新されなければならないのか

バイデン政権による法人税引き上げ政策は、多国籍企業に対する国境を超えた新たな課税ルールの実現を促すことになる。新たなルールへの道筋をふり返ってみよう。

戦前の国際連盟の時代から、国境を越えた事業活動に対する課税の問題は検討が重ねられてきた。そこでは、多国籍企業の本社所在国と海外子会社立地国の課税の配分が焦点になり、

二重課税の調整を図る2国間租税条約のモデルが作成された。第二次大戦後、多国籍企業の活動が活発になるにつれて、二重課税を回避しつつ課税権を確保する租税条約と国内租税法体系の整備が図られていった。国際的な議論の場としてはOECDと国連の二つがあったが、主導権は先進国クラブであるOECDが握っていた。

出し、多国籍企業課税の新ルール形成を目指した。2018年には、①多国籍企業の総利益に対する課税権の国別配分、②法人税の国際最低税率の設定という2本柱からなる方策がまとめられた。ところが、米国のトランプ政権がこれに同意せず、新ルールの実現は暗礁に乗り上げた。そこにバイデン政権が登場し、国内の法人税増税政策に連動する形でOECD提案を来国主導で推進することに

このような問題点をあげて、いま拙速に決定してしまうと今後当分の間変更されないため、もう少し時間をかけて検討すべきだとし、早期妥結に反対する意見が提起されている。しかし、現在の改革機運を逃すならば、現状を変える機会が失われ、現行の欠陥ルールが生き続けることになる。